

男性学が面白い。たとえば こういった主張は、「男性⇨加害者、女性⇨被害者」という図式としてまとめられよう。しかしながら、この主張はすべて正しいのであろうか？ 逆に、男性のほうが被害者になつてしまうことはないのか。たとえば、多くの男性は「男たるもの人に弱みを見せてはならない」「競争には勝たねばならない」といった具合に、男らしさなるものを無自覚的に刷り込まれていく。冒頭に挙げた男性問題は、実は、女性が女らしくあることを強要されて女性問題が起きたのと同様、男性が男らしさのこだわりを強要された結果として発生したのではないか。

こういった古い男らしさからの解放は、男性問題の解決に繋がるだけでなく、実は女性問題の解決可能性をも秘めている。男性たちが無自覚に背負い、思いこんできた男らしさから自由になることは、男性自身にとってもプラスの結果を生むとともに、女性や同性愛者に対しても、これまでの社会的排除や差別からの「ジェンダーフリーな社会」を作り出す。

男性問題

子どもが大人へと成長するさいに、男らしくあるいは女らしく育つように周囲から期待され、内面化しつつ成長していく。一部のフェミニズムや女性学の専門家によれば、その結果、「男は外、女は内」といった性別役割分業に象徴されるような、男女不平等の社会構造に組み込まれていく。

子どもが大人へと成長するさいに、男らしくあるいは女らしく育つように周囲から期待され、内面化しつつ成長していく。一部のフェミニズムや女性学の専門家によれば、その結果、「男は外、女は内」といった性別役割分業に象徴されるような、男女不平等の社会構造に組み込まれていく。